



# なんでもねん

発行責任者 倉橋 忠

No.29



## 「魏志倭人伝」から弥生時代の暮らしを読みとろう

日本の古代の様子を記している最も古い記録は、中国の歴史書『三国志』(3世紀)中の『魏志』(魏の歴史)の「倭人伝」(倭人伝)である。これを「魏志倭人伝」という。

「魏志倭人伝」の記述内容については、どの程度正しいのか議論もあるが、古代史を学ぶ上で重要な史料である。原文と現代語訳を見比べながら、読んでみよう。

原文と現代語訳は、すべて石原道博編訳『新訂 魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』岩波文庫(1985年)から引用した。

なお、現代語訳は、私(倉橋)が再編して、中学生に分かりやすよう修正した。

## 『魏志』倭人伝

### 【邪馬台国の位置】

倭人は帯方(現在の韓国ソウル附近)の東南大海の中に住み、山の多い島に国や邑(村)を作る。もと百余国。漢のとき朝見(参内して天子に拝謁)す



る者があり、いま使訳(使者と通訳)の通ずるところは30国。

郡(帯方郡・(朝鮮半島に置かれた魏の役所のこと))から倭に行くには、海岸にしたがって水行し、韓国(馬韓)をへて、あるいは南へあるいは東へ、その北岸の狗邪韓国(加羅・金海)に行くのに7000余里。海をわたり1000余里で、対馬国につく。(中略)

(対馬から)南の一海をわたること1000余里、瀚海(大海、対馬海峡)という名である。一大国(一支・老岐)につく。(中略)一海をわたること1000余里で、末盧国(松浦、名護屋・唐津附近)につく。4000余戸ある。(中略)東南に陸行500里で、伊都国(怡土・糸島郡深江附近)につく。(中略)1000余戸ある。王がいるが、みな女王国に服属する。郡使が往来し、常駐の場所である。東南の奴国(那津・博多附近)まで100里。(中略)20000余戸ある。東行して不弥国(宇彌・宇美か)まで100里。(中略)1000余家ある。南の投馬国(靉・出雲・但馬、玉名・都万・妻・三瀦・薩摩か)に行くには水行20日。

(中略)50000余戸ばかり。南の邪馬壱(邪馬台)国に行くには、女王の都とするところで、水行10日・陸行1月。官に伊支馬(伊古麻・生駒・活目か)があり、つぎを弥馬升(観松彦か)といい、次を弥馬獲支(御間城か)といい、次を奴佳鞮(中臣・中跡か)という。70000余戸ばかり。女王国から北は、その戸数や道里はほぼ記載できるが、それ以外の国は遠くへだたり詳しく知ることができない。

次に斯馬国(志摩・桜島か)があり、次に己百支国(城辺・磐城・伊爾敷・石城か)があり、次に伊邪国(伊作・伊雑・伊蘇・伊予か)があり、次に都支国(球珠・串伎・榛原か)があり、次に弥奴国(三根・湊・美濃か)があり、次に好古都国(笠沙・各務・方県・河内か)がある。(中略)

その南に狗奴国(球磨・河野・隼人・熊襲・城野・毛野・熊野か)があり、男を王とする。その官に狗古智卑狗(菊池・久々智彦か)がある。女王に属さない。帯方郡から女王国までは12000余里。

### 【倭国の人々の暮らし】

男子は大小(身分の差)の区別なく、みな顔や体に入墨する。(中略)

倭の水人は、好んで潜って魚や、はまぐりを捕え、体に入墨して大魚や水鳥の危害をはらう。のちに入墨は飾りになる。諸国の入墨はおのおの異なり、あるいは左に、あるいは右に、あるいは大きく、



あるいは小さく、身分の上下によって差がある。その道里を計ってみると、ちょうど会稽の東治(福建閩侯)の東にあたる。

その風俗は淫らではない(礼儀正しい)。男子はみな髪はみずら、木綿を頭にかけて、きものは横幅の広いもの、ただ東ねて連ね、縫いつけることはない。婦人は、髪は束髪のたぐいで、単衣のようなきものを作り、その中央に穴をあけ、頭を突込んで着ている(貫頭衣という)。稲・いちび・苧麻(カラムシ)をうえ、蚕をかい、糸をつむぎ、細紵(いちび、ほそあさの布)・縑(かとりぎぬ・きぬ)・綿を生産する。その地には牛・馬・虎・豹・羊・鶴(こまがらす・かささぎ)はいない。兵器には矛・楯・木弓をもちいる。木弓は下を短く上を長くし、竹の矢は、あるいは鉄のやじり、あるいは骨のやじりである。(中略)

倭の地は温暖で、冬も夏も生野菜を食べる。みなはだし。屋室があり、父母兄弟はねたり休んだりする場所を異にする。朱をからだに塗るが、中国で粉を用いるようなものだ。飲食には高坏をもちい、手で食べる。人が死ぬと、棺はあるが槨(そとば

こ)はなく、土を封じて塚をつくる。(中略)

その習俗は、挙事(事をあげ  
行う、事業や仕事をはじめ)  
や往来などの時は骨を灼いて  
ト(うらない)し、吉凶を占  
い、令亀の法のように、火の  
さけ目で兆を占う。

その会同(会合)の座席には  
父子男女の別はない。人は酒  
好きである。大人(身分の高い  
人)の敬するところをみると、

ただ手を打って跪拜(ひざまずき  
拜する)のかわりにする。その人は長  
生きで、あるいは100年、ある  
いは8、90年。風習では、国の  
大人はみな4、5婦、下戸(最下  
級の身分)も2、3人の婦人を持  
つ。婦人は貞淑で、やきもちを  
やかず、盗みかすめず、訴えご  
とは少ない。法を犯すと、軽い  
者はその妻子を没収し、重い  
者はその一家および宗族(一族)  
を滅ぼす。

浴以如練沐其行來渡海詔中國使一人不梳  
頭不去髮衣履垢汚不食肉不近婦人如喪人  
名之為持藜若行者其苦其願其空口財物若有  
疾病遺棄其屍骸殺之謂其持藜不謹出真珠青  
玉其山有丹其木不辨好壞極極極極極極極  
香其竹篋其杖有藤樹根葉荷不知以為滋味  
有備候黑雉其俗舉事行來有所為極灼骨而  
卜以占吉凶先告所卜其辭如令龜法視火垢占  
兆其會同坐起父子男女無別人性嗜酒其  
婦人  
人壽考或百年或八九十年其俗國大人皆四五  
婦下戸或二三婦婦人不淫不妬不盜竊必諱  
論其犯法輕者沒其妻子重者沒其門戶及宗族  
幕車各有差序足相臣服收賦有歐國國有市  
交易有無使大倭監之自女王國以北特置一大  
率檢察諸國思煙之常治伊都國於國中有如料  
史王遣使詣京都帶方郡諸韓國又遣使倭國皆  
臨津渡渡傳送文書賜遺物詔女王不得差錯  
下戸與大人相逢道路或通入草傳辭說事或蹲  
或跪兩手據地為之恭敬對應聲曰噫比如吹諾

【倭国の人々と身分差別】

身分の上下によっておのおの差別・順序があり、たがいに臣服するに足りる。租賦  
(ねんぐ・みつぎ)を収める、邸閣(倉庫・邸宅・商店など)があり、国々に市がある。  
交易をおこない、大倭(倭人中の大人)にこれを監督させる。(中略)

下戸が大人と道路でたがいに逢うと、ためらって草に入り、辞を伝え事を説く場合  
には、あるいはうずくまり、あるいは 跪き、両手は地につけ、恭敬の態度をしめ  
す。対応の声を噫(あい)とい  
い、それは、然諾(承知)の  
意味である。

【女王 卑弥呼】

その国は、もとは男子が王  
となっていた時代が7、80年  
あった。そのころ、倭国が乱  
れ、互いに争うこと(戦争)が  
長く続いた。そこで共に一女  
子を王とした。名を卑弥呼

(ヒミコ)という。鬼道(まじない)につかえ、よく衆をまどわせる。年はすでに長大だ  
が、夫婦はなく、男弟がおり、佐けて国を治めている。王となつてから、朝見する者  
は少なく、婢(女の奴隷)1000人をみずから侍らせる。ただ男子一人がいて、飲食を  
給し、辞を伝え、居処に出入する。宮室・楼觀(楼閣・たかどの・ものみ)・城柵

其國本亦以男子為王在七八十年倭國亂相攻  
伐歷年乃共立一女子為王名曰卑彌呼事鬼道  
能或飛年已長大無夫婿有男弟治國自為王  
以來少有見者以婢千人自侍唯有男子一人給  
飲食傳辭出入居處宮室樓觀城柵嚴設常有人  
持兵守衛女王國東渡海千餘里復有國皆倭種  
又有倭國在其南人長三四尺去女王四千餘  
里又有裸國黑齒國復在其東南始行一年可至  
矣問倭地絕在海中洲島之上或絕或連周旋可  
五千餘里景初二年六月倭女王遣大夫難升米  
來詣郡求詣天子朝獻太守劉夏遣東將送詣京  
都其年十二月詔書報倭女王曰制詔親魏倭王  
卑彌呼帶方太守劉夏遣使送汝大夫難升米次  
使都市牛利奉汝所獻男生口四人女生口六人  
班布二匹二丈以到汝所在踰遠乃遣使貢獻是  
汝之忠孝我甚哀汝今以汝為觀魏倭王假金印  
紫綬裝封付帶方太守使汝其將魏種人勉為  
孝順汝來使難升米牛利涉遠道路勤勞分以難  
升米為奉善中郎將牛利為奉善校尉假銀印青  
綬引見勞賜遣還令以終地交龍錦五匹

をおごそかに<sup>もち</sup>設け、いつも人がおり、兵器を持って守衛する。(中略)

景初2年(明帝、西暦238年)6月、倭の女王が大夫難升米(田道間守か)らを遣わし郡に詣り、天子に詣って朝献するよう求めた。太守(郡の長官)劉夏は役人を遣わし、京都(魏の首都・洛陽のこと)まで送らせた。

その年12月、詔書で、倭の女王に報じていうには、

親魏倭王卑弥呼に勅を下す。帯方の太守劉夏が、使を遣わし、あなたの大夫難升米・次使都市牛利(出石心・都我利)を送り、あなたが献じた男生口(男の奴隷)4人・女生口(女の奴隷)6人・班布(木綿の布・さらさの類)2匹2丈を奉って到来した。あなたの在所ははるかに遠いが、そこで使を遣わして貢献した。これはあなたの忠孝であり、わたしは甚だあなたをいとしく思う。いまあなたを親魏倭王となし、金印紫綬(むらさきのくみひも)を仮りに与え、装封して帯方の太守に付し仮りに授けさせる。あなたは、種人(同一種族の人・異族の夷狄(えみし))を安んじいたわり、勉めて孝順をせよ。あなたの来使難升米・牛利は、遠路はるばるまことにご苦勞であった。いま、難升米を率善中郎将(五官・左右三署の長官)となし、牛利を率善校尉(宮城の宿衛・侍直)となし、銀印青綬を仮りに与え、ねぎらって物を賜し遣わし還す。いま絳地(こいあかぢ、また絳綿のあやまり、綿はつむぎ・あつぎぬ)交竜綿(蛟竜の模様のある綿)5匹・絳地縹粟罽(ちぢみの粟紋のあるうおあみ・けおり・もうせん)10張・蒨絳(あかね・深紅色)50匹・紺青(ぐんじょうの一層濃いもの、金青・空青)50匹をもって、あなたが献じた貢物(みつぎもの)の直(あたい)に答える。また、特にあなたに紺地句文錦3匹・細班華罽5張・白絹50匹・金8両・五尺刀二口・銅鏡百枚・真珠・鉛丹(道家で鉛を練って作った丹、炭酸鉛・紅色結晶性の粉末)おのおの50斤を賜い、みな装封して難升米・牛利にわたす。

還りに到着したら目録どおり受けとり、ことごとくあなたの国中の人に示し、国家(魏)があなたをいとしく思っていることを知らせよ。故に鄭重にあなたに好物を賜うのである。と。(中略)



### 【女王 卑弥呼が死ぬ】

卑弥呼が死んだ。大きな塚をつくった。直径100余歩、殉死する者は奴婢100余人。さらに男王を立てたが、国中が服さない。おたがいに誅殺(罪をせめ、罪にあてて殺すこと)しあい、当時1000余人を殺した。また卑弥呼の宗女壹与(台与か)という年13歳のものを立てて王とすると、国中がついに平定した。

(後略)